

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第 2660 地区)

WEEKLY BULLETIN

No.10

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪3F
事 務 局 東大阪市小阪本町1丁目5-14
〒577-0802 小阪本町ロイヤルハイツ405号
TEL: 06-6753-8823
FAX: 06-6753-8826
E-mail: jahcrc@gmail.com



会 長 芝池 福子
会 長 ノ ミ ニ 帆 足 嘉 寿 大
副 会 長 金 子 勝 信
幹 事 小 川 高 弘

“ ロータリーのマジック ”

2024~2025 年度 国際ロータリー会長 ステファニー・アーチック

第 2268 回例会 令和 6 年 11 月 8 日 (月曜日) 第 10 号

本日の例会 11月 8日 (木) 第 1 例会

◎移動例会

◎3クラブ合同 ガバナー公式訪問

於 ; KKRホテル2階「星華の間」

ホストクラブ ; 東大阪みどりロータリークラブ

本日の献立 ブッフェ料理

次回の例会 11月 18日(月) 第 2 例会

次回の献立 中国料理

前回の例会 10月 21日(月) 第 2 例会

幹事報告 幹事 小川高弘

- ① 東大阪西ロータリークラブより、新事務局のお知らせが届いております。旧事務局は 10 月末を目途に廃止、今後は東大阪みどり RC 共同事務局となります。
- ② 大阪平野 RC より、50 周年記念事業の協賛依頼がございましたので、本日持ち回り理事会をお回しします。理事役員の皆様は、ご回答宜しくお願い致します。
- ③ 今週の金曜より、姉妹クラブである、鹿港ロータリークラブ 42 周年記念式典に芝池会長はじめ 6 名で参加して参ります。
- ④ 10月 28日 (月) の例会は休会です。
次回の例会は、11月 7日 (木) KKRホテルにてガバナー公式訪問となっております。夜 6 時開会ですので、お間違えの無いようよろしくお願い致します。アルコールが出ますので、車での訪問はお控えください。
- ⑤ 地区より、ロータリー財団地域セミナーのご案内が届いております。

幅広い地区へのご案内となっておりますので、回覧をお返しします。

会長挨拶

会長 芝池 福子

皆さんこんにちは。

今月は 11 日に IM4 組会長幹事会 (金輪会) がありました。大橋ガバナー、四宮パストガバナーが参加される会でした。昨日はフレッシュロータリアン研修会がありましたが、ご参加された会員の皆様お疲れ様でした。16 日は東大阪中央ロータリークラブの親睦として奈良国際カントリークラブでのゴルフでしたが藤原会員が優勝されました。おめでとうございます。雨かと心配されましたが曇りから晴れに変わり、プレーには差し支えなく楽しめたのではないのでしょうか。私は相変わらずスコアはよくないけれども、ニアピンもとれ楽しませていただきました。また、ゲストを快く受け入れてくださいました皆様に感謝申し上げます。会員になって貰えば良いなど考えております。

さて、今月 25 日には姉妹クラブの台湾鹿港ロータリークラブの四十二周年のお祝いに参加の予定です。我がクラブからは 6 名が参加いたしますが、来年の大阪万博もお誘いしてきます。来られた際には皆様にもご協力いただくことと思っておりますが宜しくお願い致します。

11月 7日は 3 クラブ合同で開催するガバナー訪問予定もごございますので皆様ご出席を宜しくお願いします。

本日は予定ばかりの挨拶になりましたが、これで挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

出席報告

阪上 武仁

本日の会員数	16名
本日の出席者数	14名
出席免除会員数	2名
本日の出席率	100%
10/7の修整出席率	93.75%

卓話

名村 美紀

卓話スピーカー

大阪北梅田ローターアクトクラブ 近藤 頼子様

こんにちは！

大阪北梅田ローターアクトクラブの伊藤頼子と申します。本日はこのような機会をいただき、名村さんはじめ、東大阪中央ロータークラブの皆様、誠にありがとうございます。

まだまだ若輩者ではございますが、今日は「ゆとり世代の国際奉仕」をテーマに、私の経験を「マサイと頼子とドキドキ牛の事例」と題してお話しさせていただきます。

わたしが今日お話しさせていただく旅の時期は、コロナ前の時期で、まだ、円が強く、LCCなどの普及もあり、ひょっとしたら今よりも海外に行きやすい時代だったかと思えます。

まず初めに、私の自己紹介をさせていただきます。

私は、伊藤頼子と申します。10月に誕生日を迎え、31歳になります。愛知県の西尾市に生まれました。

岡崎市や、安城市に挟まれた海岸沿いの市です。

兄が2人いて、特に下の兄はやんちゃで頑固だったので、「子供は親のゆうことを聞かない」ということをしっかり、親が学習してくれていたおかげもあり、とても自由にのびのび育てられたと振り返ります。小学校低学年くらいまでは、夕方になると、働きに出ていた母の帰りを今かいまかと待っていたのですが、パソコンを覚えてからは帰宅するとひたすらパソコンの前に座って夜中までパソコンの前で遊んでいるような子供でした。小学校や中学校は勉強で困ることはなかったので、自分すごいんじゃないかと、思っていたのですが、高校に入るとそれは勘違いであったことを突きつけられ、「できない自分」というものにそこから悩むようになっていったように思います。その悩みも相まって、大学生の時はしっかり、モラトリアムにかかり、全てを投げ出したい！そんな思いもあり、バックパッカーやボランティア活動に興味を持つようになりました。

バックパッカーになろう。その理由は、今思えばすごく後ろ向きな理由だったと思います。

人生はサドンデス。当時のはわたしは、人生に怯えていました。高校受験を失敗したら、人生お先真っ暗、大学受験に失敗したら、人生お先真っ暗、そんな恐怖心もあり、勉強や部活にはまじめに取り組み、大学まで進学しました。大学に入ったら、もう、あとは悠々自適に過ごすだけ。と、思っていたのですが、青春特有の未来に対しての不安は消えず、でも、何を頑張ったらいいいのかわからない。

「でも社会の歯車になる前に遊ばないと！」

そんな、鬱憤とした気持ちを何とかしたい、そう思い、大学4年目を休学し、旅xボランティアがテーマのバックパッカーの旅に旅立ちました。

旅したルートは中国からシベリア鉄道に乗り、モンゴルを通り、ロシアへ。そして、そこからバルト三国へ行き、ドイツ、バルカン半島をめぐり、アイスランドへ。その後、アフリカに滞在しました。

バックパッカーの旅で印象に残る景色を一つ、紹介させていただきます。アフリカのタンザニアの小さな港町の夕暮れ。肉眼では島ひとつない、そんな大海原からたくさんの木製の帆船が浜に向かって帰ってくる。そんな風景です。大昔、エンジンや金属の船もなかったような時代から、人はこうやって海を越え、貿易をしたり、新しい土地を開拓したりしていたのかと思うと、すごくロマンを感じました。

【どんな文化もそれぞれに美しく、尊い 一文化は濃く、根深く、しかし、儂い】

この帆船のように、テクノロジーやグローバル化は人々を便利に、豊かにしてくれますが、その半面、人が何百年、何千年、何万年とかけて築き上げた文化やスキルを簡単に消し去る力を持っています。文化というものがすごく儂く感じる一面もあります。その一方で、民族ごとの文化は今でも様々なところで大小の霹靂をつくり、そして、それがまじりあうことは想像以上に難しいもの、でもあることを、旅では身をもって感じました。

しかし、それでもなお、どんな文化もそれぞれに、本当に美しい。そう思います。

さて、今日は、国際奉仕、というテーマのお話をさせていただきますのですが、なぜわたしが、ボランティアを選んだのか、というと、「世のため人のためになることができたらいいなあ」という気持ちも0ではなかったと思いますが、それよりも、「ただの旅行では見えない世界や地域の姿を見たい、地域の人々と関わってその人たちの生き方・感じ方を感じたい」「できれば、生き物としてのヒトの生活・縄文時代の生活を知りたい（これは、私なりの資本主義社会の

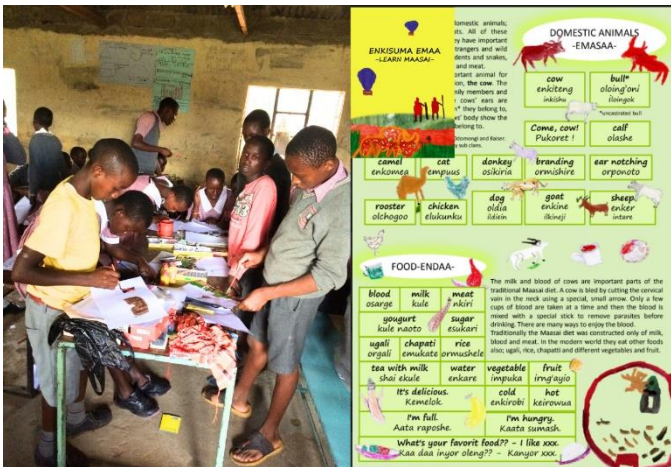
不安への逃避だったとのちに知ることになるのです
が)」という、まるで自分本位の動機ではごさいまし
た。とはいえ、見知らぬ地で、見知らぬ人、見知ら
ぬ言葉。海外なんて、台湾と香港くらいしかいった
ことがない。そんな 21 歳の自分が選んだのが、
初めにお話しさせていただき、ワークキャンプ、と
いう形の合宿型のボランティアです。
わたしは、6 カ国でこのワークキャンプに参加し、計
20 カ国の人々と一つ屋根の下ですごしながらともに
ボランティアワークに取り組みました。
少し、ワークキャンプについてご紹介します。ワー
クキャンプが生まれたのは第一次世界大戦直後の
1920 年。戦争で壊滅的な被害を受けたフランスの片
田舎で、敵として戦い合ったドイツとフランスの
若者が二度と悲劇を起ささないように、と、協力し
て農地を再建したことが始まりです。国と国とがい
がみ合うことがあっても、一人間としてお互いを理
解し、関係を築くことが将来的な世界平和につな
がる、として、今では国連の CCIVS のネットワークの
一員として約 70 カ国で行われています。
私自身、なかなか英語が伝わらず、苦勞したことも
ありましたが、言葉がわからなくても、共に汗を流
し、同じご飯を食べるということはこんなにも人と
の距離を近づけてくれるのかと大変貴重な経験を
できたと思っています。
ボランティアの内容自体は、植樹や文化交流、公園
や公共設備の整備など、様々でした。

その一環で、アフリカに行ったのですが、それは、
どうしてもそのサバンナの地で自然と共に暮らすマ
サイ族の家庭にホームステイをしたい！という願
いを叶えるためでした。マサイマラ国立公園のゲート
目の前の町で、ミッション系の病院でのボラン
ティアに 1 ヶ月参加しました。そして、そのボラン
ティア中に、次の話のきっかけとなる出来事が起
きたのです。「最近、世界が冷たいの」
これは、市場で買い物中にホストマザーのメアリー
が言った言葉。わたしは、この、短い一言に強い違
和感を覚えました。たしかに、基盤となる産業はな
く、今でもきれいな水を飲めない子供も、学校にい
けない子供も、たくさんいるような地域で、主にヨ
ーロッパ系から多額の寄付をうけ、病院や学校も
寄付によって成り立っているような環境です。
でも、豊かな自然がある。そこに住む人々が誇らし
げに紡いでいる伝統的な文化もある。世界中の人が
興味を持って観光に訪れるような資源に満ち、自ら

の文化に誇りをもって生きる姿をみると、わたし
からしたら、彼らは多くのものを持っている。
それなのに、牙を抜かれたライオンのように、いつ
までも外からの支援を口を開けて待っているだけの
現状に、強い憤りを覚えたのです。
わたしはもともと、1 か月のマサイマラ滞在の後は、
タンザニアに 1 か月、そして、ブラジルへ、と世界
一周に向けて旅路を進める予定でしたが、その憤り
はタンザニアにいても収まらず、タンザニアでの
ボランティアで出会ったフィンランド人にある構
想を相談しました。
それが、マサイ語の日常単語やシンプルな会話を英
語に翻訳した、絵本を作り、その売り上げをスク
ーリングの奨学金として活用する、というものでし
た。今振り返るとびっくりなのですが、そのフィン
ランドの友人は私の構想に賛成してくれただけで
なく、一緒にマサイマラに戻り、後、2 か月間、一
緒に絵本作りをしてくれたのです。
マサイマラに戻ると、あらかじめ構想に賛同して
くれていたマサイ族の知人と絵本づくりに取り掛
かりました。マサイ族の長老から聞いた伝統的な
マサイ族の文化や風習、現地の小中学生が書い
てくれたマサイ族やマサイマラにまつわる絵を
余すところなく載せ、1 冊 300 ケニアシリン
グで販売を行いました。この絵本を作るときに、
わたしはどうしても現地の小中学生にもかか
わってほしい、と思い、彼らに絵をかいてもら
うことにしたのですが、首都のナイロビで買っ
た色とりどりの絵具やクレヨンにはまだ、貴重
なもので、目をキラキラさせて絵を描いてくれ
ました。そして、興味深かったのは、彼らが描
く動物には必ず、性器が描かれているのです。
こうして、「俺が作った絵本」が地域を変える。
そんな経験を原体験に、自己効力感を備えた若
者が、「俺が誇るマサイマラ」をより素敵な社
会、自助の精神にあふれた社会にしてくれるこ
とを祈って。
最後に、「ゆとり世代の国際奉仕」というテーマ
で今日はお時間をいただきました。

国際奉仕の目的の一つに、「世界の平和」がある
のであれば、ここに行ったことがある、ここに
住んでる人によくしてもらった、そんな経験は
わたしにとって、とても大事な原体験になっ
ていると実感します。そして、それは、ニュ
ースを自分事化してくれ、国際情勢への主
体性も高まる理由になりえると振り返りま
す。国同士が憎んでも、人は憎まない。
インターネットで一人一人が簡単につなが
れるよう

になった今だからこそ、つながりを大事にするといわれる、私たち世代だからこそ描ける平和を目指して、これからも国際奉仕を行っていききたいと思います！



鹿港ロータリークラブ42周年記念式典訪問

2024年10月26日(土)

大鵬社42周年記念慶典
Lukang 42 Years Anniversary Ceremony



